

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 城山東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	19人	算数	19人	理科	19人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	18人	算数	18人	理科	18人
------	----	-----	----	-----	----	-----

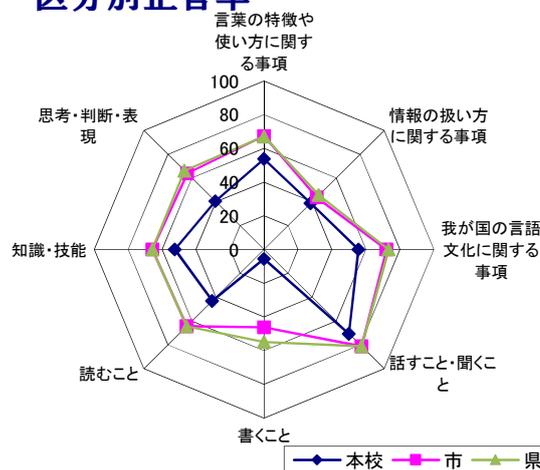
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	53.7	67.4	67.1
	情報の扱いに関する事項	38.9	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	55.6	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	70.8	81.2	81.2
	書くこと	5.6	46.2	54.9
	読むこと	43.1	64.3	64.5
観点	知識・技能	52.5	65.7	65.7
	思考・判断・表現	40.6	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

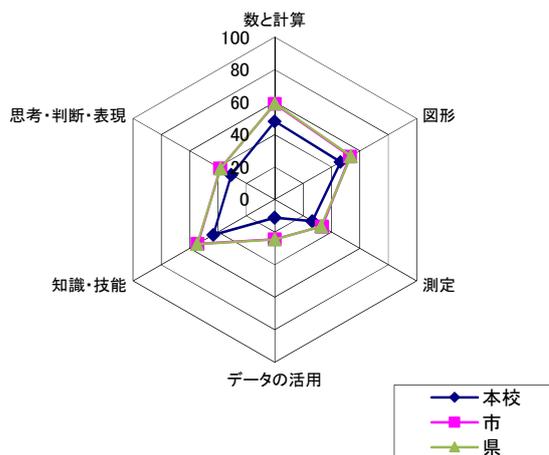
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○ローマ字の読みが定着しており、市の平均を15.3ポイント上回った。</p> <p>●漢字の読み書きが、未定着である。</p> <p>●主語と述語の関係を抑えることに課題が見られる。</p>	<p>・既習の漢字の定着を図るために、AIDリルを活用し、下学年の漢字の復習にも取り組ませる。</p> <p>・物語や説明文を中心に、一文を取り上げて主語と述語の関係を問いかけるなどして常時指導していく。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約することに課題が見られる。</p>	<p>・文章の前後の関係から情報を整理し、適した語を選ぶ力を付けるため、授業のまとめにおいて、中心となる言葉を使って書く機会を多く設定する。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●漢字のへんやつくりについての理解が不十分である。</p>	<p>・新出漢字の学習の時には、部首が示す意味について丁寧に指導していく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○司会者の話し方の工夫を捉えたり、相手に伝えるように自分の考えを理由を挙げながら話したりすることについて理解できている。</p> <p>●話し手が伝えたいことの中心を捉えることに、課題が見られる。</p>	<p>・各教科や学級活動において、話し合い活動を意図的に取り入れていく。</p> <p>・自分の意見や考えを明らかにしたうえで、話し合いに参加できるように指導していく。</p> <p>・話し手の意図を正しく聞き取れるように、適切なメモの取り方を指導していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均よりかなり低い。</p> <p>●指定された長さで文章を書いたり、自分の考えとそれを支える理由を明白にして書いたりすることに課題が見られる。</p>	<p>・各教科においても、文章にまとめる学習活動を計画的に取り入れていく。</p> <p>・朝の学習で、文章の視写の学習プリントに繰り返し取り組みませ、文章の書き方や構成にふれる機会を多く設ける。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●指示語の内容を捉えたり、文章の内容を抑えたりすることに課題が見られる。</p>	<p>・読書活動では、説明文や物語文などを読む機会を多く設定し、読み取りに慣れさせていく。</p> <p>・説明文の読み取りでは、読解力をのばすために、文章の構成に着目させ、各段落の要旨を捉えさせるなど、筆者の意図を丁寧に読み取らせていく。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	48.2	58.9	59.2
	図形	46.3	53.0	53.7
	測定	26.4	33.1	32.6
	データの活用	11.1	24.4	24.6
観点	知識・技能	43.4	54.3	54.7
	思考・判断・表現	30.6	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

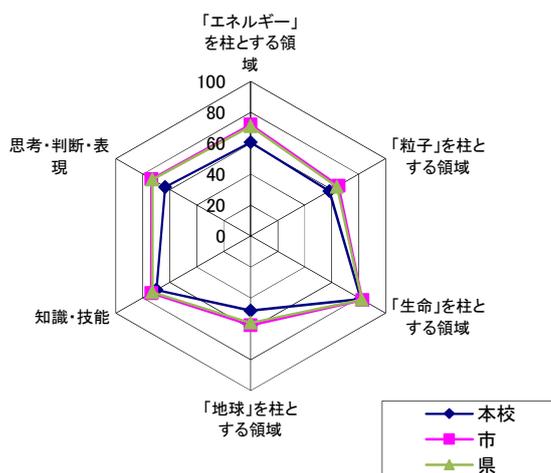
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○3けた+3けた, 3けた-3けたの計算をすることができる。</p> <p>●小数のしくみや表し方を理解しているが、整数-小数第一位の計算に課題が見られる。</p> <p>●かけ算の計算の仕方を説明することに課題が見られる。</p>	<p>・朝の学習や宿題において、意図的に、小数の計算を復習する機会を設定し、定着を図っていく。</p> <p>・授業の中で、計算方法を説明する活動を取り入れ、自分の言葉で表現することができるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○折り紙で二等辺三角形を作るにはどのように切ればいいのかを答えることができている。</p> <p>●円の性質を利用して、コンパスで正三角形を作図することに課題が見られる。</p>	<p>・円の性質について復習したり、作図の反復練習を行い、定着を図っていく。</p>
測定	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●はかりのメモリを読み取り、重さを答えることに課題が見られる。</p> <p>●キログラムとトンの関係について理解し、大きさの大小を比較することに課題が見られる。</p>	<p>・授業の中で、身の回りの物の重さをはかりを利用して測定する活動を取り入れたり、重さを様々な単位で表したりする活動を取り入れ、理解を深める。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●2つの棒グラフを比べ、1メモリの大きさを読み取ることに課題が見られる。</p> <p>●棒グラフから、示された値を読み取ることに課題が見られる。</p>	<p>・朝の学習や宿題のプリントにおいて、表題やメモリの大きさなどのポイントを確認してからグラフを読み取る習慣を付けさせる。</p> <p>・社会や理科等の他教科においてもグラフやデータから読み取る学習を取り入れ、定着を図る。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	60.6	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	58.3	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	81.5	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	48.2	57.7	56.2
観点	知識・技能	69.9	73.8	72.8
	思考・判断・表現	63.4	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○日光を集めたときの明るさとあたたかさについて正しい結果を選ぶことができる。虫眼鏡を用いた集光の実験により理解が深まったと考えられる。</p> <p>●回路の見えない部分の配線を推測することに課題が見られる。</p>	<p>・豆電球と電池の様々なつなぎ方を試し、電気が通る回路の条件を理解するとともに、示された回路について電気が通るかどうかを考える機会をもつことで、理解を図っていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●形を変えても重さは変わらないことや、同じ体積でもものの種類によって重さが違うことについて、理解が不十分である。</p>	<p>・体積と重さの関係について、様々な具体物を用いた操作・実験を行い、体験に基づいた確かな知識の定着を図っていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○虫眼鏡の正しい使い方について理解できている。一人一つの虫眼鏡を用いて、観察した体験が活かされていると考えられる。</p> <p>●ダンゴムシが昆虫のなかまでない理由を考える設問では、昆虫の体のつくりについての理解が不十分であった。</p>	<p>・昆虫の体の特徴について、身近な他の生物と比較し、特徴を絵に描いたり表にまとめたりすることで、知識を深められるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○方位磁針の正しい使い方や太陽が動く方位が理解できている。具体物を用いたり継続した観察の体験が、理解を促したと考える。</p> <p>●かげが太陽の反対側にできることの理解が不十分であった。</p>	<p>・かげふみなどの自然現象を取り入れた体験活動をするだけでなく、体験から得られた気づきを対話的に検討し、他者の考えを取り入れ自身の考えを説明するなど、考えを深める学習をすることで理解や思考を深められるようにする。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」と回答した児童は、94.8%であり、市の平均を大きく上回っている。授業づくりにおいて、興味をもてる導入の工夫や話し合う場面を取り入れる工夫をしてきた成果と考えられる。

今後はさらに、学ぶ楽しさとできた喜びを味わえるような課題の精選にも取り組んでいく。

○「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」「先生は学習のことをほめてくれる。」と回答した児童は、どちらも100%で、市の平均を大きく上回っている。児童の頑張りを家の人や先生に認め励まされている様子が分かる。

今後も、学校と家庭とが連携して児童の努力や成果を見守り、よさを伸ばす認め励ます指導を推進していきたい。

○「家で、学校の宿題をしている。」と回答した児童は、100%であり、学校全体で家庭学習への取組を強化してきた成果であると考えられる。

今後も、児童の実態に合わせて、質や量に留意した家庭学習の充実に努めていきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」と回答した児童の割合は、市の平均を大きく下回っており、自分の考えや意見を発表することに苦手意識を持っていることが伺われる。

自分の考えを説明したりペアやグループで話し合ったりする活動を効果的に取り入れ自信をもって考えを伝えらるようになりたい。

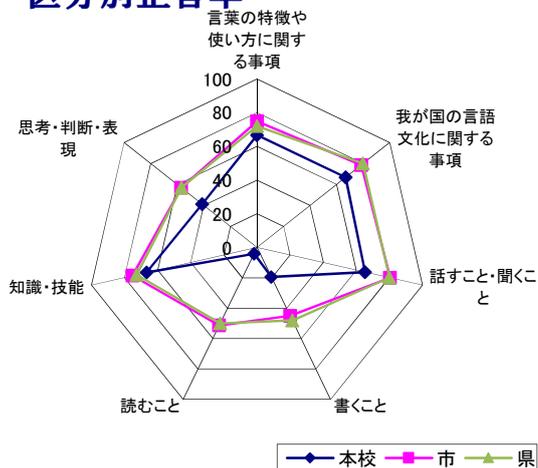
●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けいたい式ゲーム、けいたい電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか。」について、3時間以上している児童は、42.1%と市の平均を大きく上回っており、時間の管理に課題が見られる。

家庭での過ごし方やゲーム等の使用についてを指導する時間を設けたり保護者への啓発を図ったりするなど、家庭と連携を図りながら、児童が自ら時間の使い方を工夫できるように指導していきたい。

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	66.7	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	66.7	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	65.3	80.4	80.0
	書くこと	19.4	45.1	48.0
	読むこと	4.0	51.3	50.0
観点	知識・技能	66.7	75.2	72.8
	思考・判断・表現	41.3	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

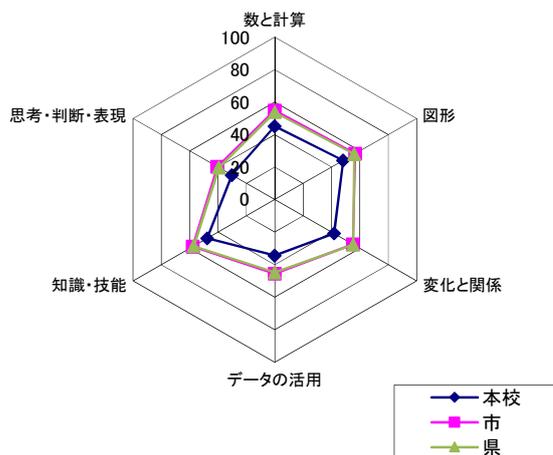
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○修飾と被修飾の関係を捉えることができていない。 ●漢字の読み書きが、未定着である。	・既習の漢字の定着を図るために、AIDリルを活用し、下学年の漢字の復習にも取り組ませる。 ・物語や説明文を中心に、一文を取り上げて主語と述語や修飾と被修飾の関係を問いかけるなどして、常時指導していく。 ・読書を通して様々な文章表現にふれさせることで、語彙を増やす。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●慣用句の意味を理解し、自分の表現に用いることに課題が見られる。	・慣用句やことわざにふれる機会を増やし、それらを自分の言語活動に取り入れさせ、表現の幅を広げられるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができる。 ●伝えたいことの中心を捉えたり、意見の共通点や相違点に着目しながら自分の考えをまとめたりすることに課題が見られる。	・自分の思いや考えを伸び伸びと表現できるように、ペア学習やグループ学習など、話し合いの形態の工夫を図っていく。 ・意見の共通点や相違点を明確にできるよう、「考えるときのヒント」を確認したうえで、話し合い活動を行っていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均よりかなり低い。 ●段落の役割の理解が不十分で、2段落構成で文章を書くことに課題が見られる。 ●内容を明確にして文章を書いたり、事実と自分の意見を結び付けて書いたりすることに課題が見られる。 ●記述式の設問に対する無回答が数名あった。	・朝の学習で、文章の視写の学習プリントに繰り返し取り組ませ、文章の書き方や構成にふれる機会を多く設ける。 ・各教科との連携を図り、分量や用語を指示して文章にまとめる学習活動を計画的に取り入れていく。 ・段落の意味を理解させ、段落に分けて文章を書けるように常時指導する。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりかなり低い。 ○文章を読んで感じたことについて、文章から読み取ることができていない。 ●登場人物の気持ちの変化について読み取ることに課題があった。	・読書活動では、説明文や物語文などを読む機会を多く設定し、読み取りに慣れさせていく。 ・物語文では、叙述を基に場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を正確に読み取ることができるよう、心情に関する言葉に着目させ、その言葉のもつ意味や意図を確認しながら指導していく。

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	45.2	54.9	53.7
	図形	48.2	56.6	56.1
	変化と関係	41.7	55.1	55.2
	データの活用	34.4	45.5	44.8
観点	知識・技能	47.7	57.8	57.2
	思考・判断・表現	30.2	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

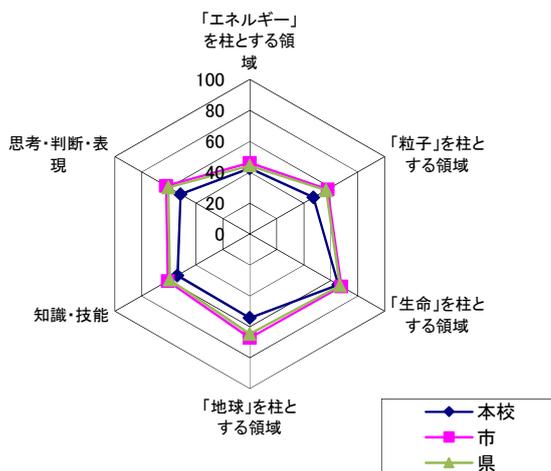
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○3けた÷2けた、帯分数－真分数などの、基礎的な計算を行うことができ、理解できている。</p> <p>○()を使った式の意味を捉えることができている。</p> <p>●小数のしくみを理解し、大きさを比べることに課題が見られる。</p>	<p>・小数について、0.1や0.01の何個分かを表し、大きさを確認することで小数についての理解を深めさせるようにする。</p> <p>・朝の学習(ぐんぐんタイム)において、基本的な計算を繰り返し行い、定着を図る。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○三角定規を利用して角度を表すことができる。</p> <p>●コンパスを利用して平行四辺形を作図することに課題が見られる。</p>	<p>・身の回りの生活の中での図形と結び付けながら各図形の特徴を理解した上で、作図をする機会を増やす。</p> <p>・朝の学習(ぐんぐんタイム)において、コンパスの使い方や各図形の見方の仕方を再度確認し、複雑な図形の問題にも取り組む時間を設ける。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の関係を読み取ることができている。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係を式で表すことに課題が見られる。</p>	<p>・2つの量を比べる時には、なぜその答えになるのかという根拠を明確にして、説明する活動を取り入れ、言語活動を進めていく。</p> <p>・2つの数量の変化の中にある、決まった数や規則性を見付ける活動を多く取り入れる。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●二次元表でそれぞれの数が何を意味しているのか表現することに課題が見られる。</p> <p>●2つの棒グラフを比較し、変化を正しく読み取り、それを言葉で表現することに課題が見られる。</p>	<p>・理科や社会科等の学習においても、二次元表に着目し、どのように表にまとめられているのかを意識させる。</p> <p>・グラフや表から必要な情報を収集したり、目的に応じて表やグラフや表を用いて表したり、読み取ったことを根拠を明らかにして説明したりする活動を意図的に取り入れる。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	42.6	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	47.2	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	65.6	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	54.3	67.2	64.6
観点	知識・技能	53.6	60.8	59.2
	思考・判断・表現	51.3	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○乾電池のつなぎ方とその名称について理解している。予想をもとに、実験を行い結果を確かめたためと考えられる。</p> <p>●電流の流れや大きさと簡易検流計の針の関係についての理解が不十分である。</p>	<p>・実験の予想や実験の時の様子について説明をする場面を設け、結果や考察などにおいて自他の意見の相違点を確認し合うなどの機会を増やしていく。</p> <p>・電気の流れ等、目視しにくいものは、図解等で電気の流れをイメージしやすくしたり、簡易検流計を使い、数値で確認したりすることで、変化について捉えやすくする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○湯気と水蒸気の違いについて理解している。水の状態変化について実験したり動画で確認したりしたためと考えられる。</p> <p>●金属をあたためたときの体積の変化について、身近な出来事と関連付けながら言葉で表すことが難しい。</p>	<p>・思考力、表現力を高めるため、既習の学習内容や生活経験をもとに考えたり、解決したりする機会を多く取り入れるよう毎時間の授業を工夫していく。</p> <p>・金属の温度による体積変化の理解が深まるよう、実験や生活経験を活かした授業の工夫をしていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○夏の植物の成長について理解している。春から秋にかけて植物を育てたためと考えられる。</p> <p>●ヒトの体の仕組みにおいて、骨と関節の名称やその関係性についての理解が不十分である。</p>	<p>・ヒトの体のつくりについての学習では、重いものを持ち上げることなどを例示し、経験を通して理解が深まるようにしていく。</p> <p>・学習内容が生活の中でどのように関連付けているのかや活かされているのかを取り上げ、予想や仮説を立てて実験に取り組むように指導の工夫、改善を行う。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○水の流れについて身近な出来事と関連付けて考えることができている。雨が降った後の校庭の様子を観察し、考察したためと考えられる。</p> <p>●月の動き方についての理解が不十分である。</p>	<p>・月の満ち欠けについて、実験や観察を通して丁寧に確認することで理解を深められるようにする。</p> <p>・実験において、予想で自分なりの仮説を立てることや、結果の考察を記述する等の習慣付けをしていく。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」と回答した児童は、83.3%で、市の平均と比べて5ポイント以上高い。自分の考えをもちペアやグループで話し合う活動を効果的に取り入れる授業づくりを工夫してきた成果であると考えられる。

今後は、友達の考えと自分の考えを比べたり、考えた根拠を説明したりして、充実した話し合いを行っていく。

○「自分にはよいところがあると思う。」と回答した児童の割合は、88.9%で、市の平均より5ポイント以上高くなっており、児童のよさに目を向け、認め励ます教育を推進してきた成果であると考えられる。

今後は、友達のよさや自分のよさを伝え合う場を設定し、自尊感情を育てていく。

○「学校での役割や係の仕事にせきにならなくても取り組んでいる。」と回答した児童は、100%で市の平均より5ポイント以上高く、児童一人一人が学校生活の中で、活躍できる機会をもっている様子が伺える。

今後は、継続して一人一人が活躍できる場面を作り、自己有用感を高めていく。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式ゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームをふくむ)をしますか。」において、3時間以上と回答した児童の割合は、市の平均を大きく上回っており、時間の管理に課題が見られる。

家庭での過ごし方について、振り返る時間をとったり保護者に確認を依頼したりするなど、家庭と連携を取りながら、児童が自ら時間の使い方を工夫できるよう指導していきたい。

●「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる。」と回答した児童は、55.5%で市の平均を大きく下回っている。児童の実態を把握し、個別支援をするなどしてその都度解決していく習慣を身に付ける機会を設定していくとともに、学習内容に粘り強く取り組むことの大切さを伝えていく。

宇都宮市立城山東小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「宮っ子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算)」の計画的な実施。 ・漢字・計算くり返し練習を取り入れた、意図的な家庭学習の設定。 ・朝の学習「城山ぐんぐん式」(国語・算数における基礎基本の繰り返し学習)の実施。 ・朝の学習での、担任以外の教職員の活用。 ・AIドリルの活用。 	<p>○国語「漢字」や算数「計算」では、県や市の平均正答率と同等であった。</p> <p>●4,5年生ともに、国語、算数の全分野において、県や市の平均正答率を下回っている。</p> <p>●国語の「書くこと」に関する問題では、4,5年生ともに正答率が県や市の平均を大きく下回っている。</p> <p>●家庭内でのゲームやテレビなどの使用時間が、1日平均4時間以上の児童の割合が高い。</p>
言語活動の充実による主体的・対話的な指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合い活動を意図的に取り入れる。「考えるときのヒント」の掲示物の活用 ・学び合い活動での課題設定や発問の工夫。 ・自分の思考イメージを外化(絵・図、言葉、計算式、ロールプレイ、具体物等)をしてから話し合う、学習過程の工夫。 ・ペアや少人数、グループ、全体等での協働的な学び合い形態の工夫。 ・発達段階に応じた話し方・聞き方の段階的指導や話し合いのポイントを示した掲示資料の活用。 	<p>○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の質問に肯定的に回答した児童の割合が市の平均を5ポイント上回っている。</p> <p>●「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」の質問に肯定的に回答した児童の割合が市の平均を大きく下回っている。</p>
実感を伴った作業的・体験的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な物や事象について、実際に大きさを調べたり確かめたりする作業的・体験的活動の充実。 ・日常生活における身近な物を測ったり、身近な事象に目を向けたりする機会の、意図的な設定。 	<p>○算数の「角度」や理科の「水の流れ」「日光」などに関する内容では、市の平均正答率を上回っており、体験などを通じた学習において定着が図られていることが分かる。</p> <p>●算数では、4・5年生ともに、全区分で正答率が市の平均を下回っている。データの活用についての問題での正答率が市の平均を大きく下回っている。</p>

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
--------------	--------	-----------

<p>基礎基本の未定着がある。そのことにより、思考力・表現力を要する発展的な問題に課題が見られた。</p>	<p>基礎基本の定着を図る学習の充実。(国語の漢字・算数の計算に重点を置く。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を図るために、朝の学習などで、既習内容の復習を繰り返し行う。 ・家庭学習の定着を図るため、家庭学習ががんばり週間の取組方法を見直したり、保護者との連携を図ったりする。
<p>教科に関する調査から、記述式での正答率が著しく低い。自分の考えを、必要な言葉を使って表現することに課題が見られる。</p>	<p>自分の考えを表現する学習の充実。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・算数や理科などで、教科で使用する用語や用具の指導を丁寧に行う。 ・各教科と連携を図り、自分の考えを表現するために、分量や用語などを用いて文章にまとめる活動を意図的に取り入れ、理解を深める。 ・朝の学習で、文章の視写の学習を行い、文章の書き方や構成にふれる機会を設ける。